

## ドバイ視察日記

「エミレーツで行こう！」のスタッフが、恥ずかしながら今回初めてエミレーツ航空を利用してドバイに行ってきました。目的はとにかくエミレーツとドバイを体験し、少しでもサイトご利用者の方のお気持ちを理解すること。そしてサイト上で発展著しい現在のドバイをご紹介します。

2007年のキャンペーンの際に、名古屋発着に東京から往復の新幹線切符をつけるというものがありませんでした。今でも空席がない場合には東京近郊にお住まいの方に名古屋からのご出発やお帰りをご提案することがあるため、今回は私も東京から名古屋に新幹線で行き、帰りは関空ー羽田としてみました。結果は…、まずはご一読ください。

日程：2008年2月21日（木）～2月25日（月）（2泊5日）

場所：ドバイ、シャルジャ、アジマン（アラブ首長国連邦）

### 【1日目】 東京駅ー名古屋駅ーセントレア（中部国際空港）ードバイ

#### ● JR名古屋駅から名鉄名古屋駅への列車乗継

まず東京から名古屋までは約1時間40分。JR名古屋駅と名鉄は隣接していますが、一度出てから隣のビルに入ることになります。移動の時間は時間にすれば5分か10分くらいですが、いくつかの階段を降りる時に下りのエスカレーターが無いので、大きな荷物をお持ちの場合は前もって送るなどしないと大変だと思います。

白状しますと、お客様からご質問をいただいた際に、「費用は1万円くらいで、1時間ちょっとで名古屋駅まで着きます。あとはそこから30分か40分くらいですね。」などご案内していたのですが、実際はもっとかかります。はっきり行って東京から行く場合、やはり羽田ー関空ードバイがベストです。やむをえず名古屋空港を利用する場合は成田ー名古屋ードバイというルートも取れますので、それならばまだ良いと思われる。



新幹線のぞみ（N700系）

JR名古屋駅の出口（広小路口）

名鉄名古屋駅発の特急列車（一例）

●列車はかなり頻繁にあり、特急の場合は、名古屋を出て2駅に停まったあとセントレアまで一気にいきます。所要時間はちょうど30分くらい。夜遅いこともあってか、この日はガラガラでした。

また白状しますと、私は間違えてJR名古屋駅から近鉄側に行ってしまい、名鉄側に戻るハメになりました。



特急車内の様子

セントレア

セントレア動く歩道（少々の登り坂）

● セントレア2Fのショッピング街。

小さな街のような様子。何となく国際線側が西洋風、国内線側が和風の町並み。お風呂もありますが、これは国内線側の2Fにあります（21時まで入場可、22時まで営業）。エミレーツでドバイに行く場合は夜行便になり、着いてそのまま行動というケースも多いため、早めに空港に着いて一風呂浴びてしまい、さっぱりして機内で寝るというのも良いですね。特に今回のように仕事の後そのまま出発する場合はそうした方がいいものです。



セントレア2F



セントレア2F



セントレアスカイデッキ（7時～21時）



セントレア2F（国内線側）



セントレア2F（風呂）



セントレア2F（風呂）

● 両替

ディラハムは日本で両替ができないと聞いており、またドバイで日本円からディラハムに替えるよりドルからの方がレートが良くなるというので、ドルに帰るつもりで両替に行ったところ、セントレアではディラハムの表記がありました。レートも悪くないので（10,000円→33.95ディラハム）ここで両替。結果的に、現地で見ただの両替商よりも良いレートでした（トラベレックス、関空はないが、羽田国際Tと第一ターミナルも可）。

またまた白状しますと（白状ばかりで恐縮です）、当サイトで以前にトラベレックスについては紹介しておりました。ただ、市内でのことと思い込んでおり、空港で実際に両替できるとは知りませんでした。

ちなみにドバイでのレートは、ショッピングセンター、空港、ホテルの順でだんだん悪くなります。

また、帰りにドバイ空港で円に再両替しようとしたところ、「1000ディラハム以上でないといけない」と言うので、仕方なくドルに替え、関空で円に替えました。

● 機内

【エコノミークラス】

並びは2-4-2（場所により2-3-2）。良く動くフットレストあり。リクライニングは座る部分も前にずれながら動く方式。前の座席の下に突っ込んでしまえば足も結構伸ばせます（体感としては、ビジネスよりラクな面も）。

ヘッドレストは両脇を自由に折り曲げられるので、寝ている時に頭がグラつかずに済みます。



エコノミー

エコノミー（ドリンクホルダーあり）

エコノミー（テーブルは展開式）

トイレは1ブロックに2つくらいなので、夜行便のため利用時間が集中することもあり、利用は早めにしないと大分待つはめになります。入ってしまえばキレイでとても快適です。

● 機内エンタテインメント ICE（Information Communication Entertainment の略）

映画はオンデマンド。自分で早送り等して好きなように見られます。日本語の映画もいくつか用意されています。フライト情報や現在位置は液晶画面で見られる他、前方と下方に向けた機外カメラの映像を見られます。ほとんど夜なので余り見えませんが、帰国時の着陸は関空が見えてきて着陸するところが見られてなかなか興味深いものでした。日中乗り継いでどこかに行く場合は、きっと面白い風景が見られるものと思われる。

● 機内食

2回。夜行便ですが、ちゃんと2回出ます。夜行便とはいえ機内食は2回。着いたらまた朝食なので、気をつけないと食事ばかりしていることになります。帰りは乗ってすぐの軽食はパスしました。



エコノミー座席

ビジネス座席

ファースト座席（開閉式、上からは覗ける）

【ビジネスクラス】

座席はシェル型になっており、フルにリクライニングしてもシェルの中でシートが動くだけなので、後ろの席の前面は動きません。リクライニングとフットレストは電動式（大きなりモコンが左脇に収納）です。

フットレストの伸び幅には限界があるため、ある程度背が高い人の場合は足が伸ばし切れない状態になるかもしれません。

通常のライトの他に、頭の脇にも読書灯があります。

写真の席は壁の前の席で、液晶画面は手すりから出ます。2列目以降の方が、前の座席の背面に画面があるため、画面が大きかったようです。

【ファーストクラス】

席には座っておらず、後方から覗いただけですが、画面はビジネスよりも大きかったようです。また、恐らくシートはフルフラットであると思われます。横の扉が閉まりますが、横を歩けば中は見える程度の高さです。

## ● フライト

約11時間半。夜中発で時差が-5時間のため、しばらく起きていてから睡眠を取りました。

長時間のフライトですが、少し寝て割とすぐ着いてしまいます。天井には例の「星空」が光っていました。

## ● ドバイ空港

入国審査は随分ゆっくり行うため、ビジネス、ファーストクラスの方は専用のゲートがありますが、エコノミーは大分並んでかなり時間がかかります。滞在先のホテルを聞かれました。

余談ですが、入国管理官は5交代制で、2日働いたら2日休みだそうです。こんな具合に世間話をしているので時間がかかってしまいます。着陸から空港を出るまで、1時間くらいはかかる見当です。

エスカレーターを乗り継いで何フロア分も降り、それから滑走路の下を潜る地下道で進みます。

## ● ドバイ市内へ

空港から市内は早朝ということもありますが近く、20分程度で到着。

到着後、ホテルにはまだチェックインできないため、代替りのリビエラホテルに向かい朝食。クリーク（運河）の近くのホテルで、パッケージなどで朝食の場所として利用されているようです。

しばらくすると日本人グループが入って来ました。添乗員の方が付いて一気に来たので、やはり到着したてのようです。

単なる朝食とはいえ、フライトが早くついたためにそのまま2時間以上も時間をつぶし、それから（8時半頃）

市内観光に向かいます。

夜行便で到着した後、無為に時間を過ごして観光に出るのはきついで、24時間チェックイン可能なホテルやアーリーチェックインは、この点非常に嬉しいと思われまます。

## ● 交通

ドバイは車が多く、渋滞が慢性的だそうですが、金曜日（安息日）の午前中であるためこの日はスムーズ。

道行く車は高級車が多く、タクシーのドライバーはインド人などの出稼ぎ。バイパスの制限速度は70キロでしたがかなり頻繁に車線変更をし、ウインカーもあまり出さない。全体に運転は荒っぽい感じです。

市内、郊外ともに信号は少なく、大きなラウンドアバウトをグルグルまわりながら進みます。

ちなみに車は右側通行です。

金曜日でも夜はかなり渋滞し、市内は駐車場が少なく、皆路肩に駐車するため余計に混雑します。

案内してくれた人が道を間違えたせいもありますが、この日は1時間以上も渋滞とラウンドアバウトの疾走を繰り返し、目的地のレストランについても車を停めることができず、しばらくウロウロしました。

尚、現地の方の説明によると、空港からはともかく、市内ではタクシーはほとんどつかまらないそうです。

2009年頃には空港から市内、ジュメイラ地区へと地下鉄とモノレールが完成するそうなので、そうなればこの点はある程度解消されるかもしれません。

## ● 気候

この時期（2月）の気候は過ごしやすく、気温は25~28℃まで上がるそうですが、暑いという感覚はありません。

それでもビーチエリアに行けば人々は泳いでいます。泳いだ場合の体感温度は残念ながら不明です。

## ● ゴールドスーク

金曜日の朝ということで、空いている店はまばら、金の装飾品を丁寧に陳列していました。

きらびやかな装飾品は目を引きませんが、デザイン的には好みの分かれるところだと思われまます。

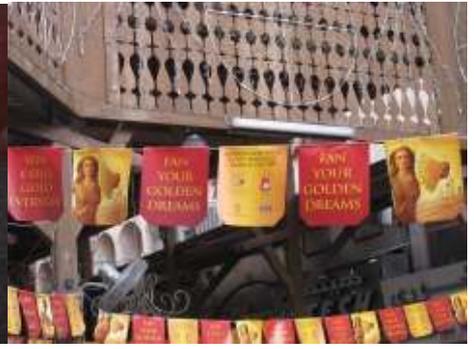
写真のチケットは、500ディラハム（約16,000円）でチケットを買って応募すると、毎日1キロの黄金が当たるというものです。



ゴールドスーク



懸賞の応募



懸賞の内容が書かれたのぼり

●スパイススーク

乳香やサフラン、その他各種のスパイスが揃います。金曜の午前中ということもあり、人影はまばら。たまたまガイドがイラン系の人だったので、案内されたのはイラン系の通りだったようです。



スパイススークのスパイス



クリーク



アブラのチケット売り場

● クリーク

アブラに乗ってクリークを横切り、対岸に渡りました。1ディラハム（33円くらい）で渡れるそうです。クリークは頻繁に掃除しているとのことで、水は割ときれいです。この日はそうでもありませんでしたが、そこそこ透き通って見えるそうです。アブラは相当な数があり、常に行き交っています。



クリークの様子

●ジュメイラ地区へ向かう途中



ジュメイラモスク

メルカート ショッピングセンターの様子

●ジュメイラ地区へ

ジュメイラモスクは車窓からのみ。メルカートショッピングセンターの外観はレンガ造り、中は天井がガラス張りで明るい雰囲気。中には映画館もあり、ファーストフード（マックも）などのカフェが充実しており、ショップはカジュアルな店がメインです。



ジュメイラビーチパーク（入場有料）

ファーストフード店

ジュメイラビーチの様子

●ジュメイラビーチパーク

入場は有料。中は整備された緑があり、芝生ではだしになってくつろぐ人も多い。もともと砂漠のこの場所では芝生は何よりぜいたくなものなのかもしれません。

ビーチは広く、皆思い思いに楽しんでいます。海に向かって左の方には有名な七ツ星ホテル、バージュアルアラブがあるはずですが、晴れていても視界はあまりきかず、ここからではまだ見えませんでした。

夏になるとそうでもないとのことでしたが、空は常に白っぽく、快晴でもあまり青く見えませんでした。街中で工事を行っているような状態なので、その影響かもしれません。周囲の工事が一段落した2、3年後にどうなるか興味があります。このあたりのビーチはかなりの遠浅だそうです。

●リージェントビーチリゾート

ジュメイラパークとジュメイラホテルの間にある、ビーチで唯一の3ツ星ホテル。中庭にはプールもあります。バーの壁がビニール張りだったり、少々チープな感じは否めませんが、清潔です。



外観

室内



ジュメイラビーチホテル（左）とバージュアルアラブ（右）

● ジュメイラ地区

ジュメイラパークのあたりより水深もあり、波も多少高いため、サーファーも見られました。

向かい合って建つジュメイラビーチホテルとバージュアルアラブ。上中央の写真にある、バージュアルアラブの

左の円はヘリポート。ドバイ空港からここまで直行で約24万円だそうです。右の突起は展望レストラン。

アラビア海の上空200メートルにあり、絶景が望めます。ハイティーで入れるのはここだそうです。

バージュアルアラブへは橋で渡りますが、宿泊またはレストランの予約がないとゲート（検問所）を通れず、

中へは入れません。最も安いのは朝食で、7～8,000円だそうです。食事はとりませんが、明日潜入の予定です。



● スーク メディナジュメイラ

昔のアラブをモチーフにしたメディナ・ジュメイラには3つのホテルがありますが、これはショッピングセンター。

3つのホテルは水路でつながり、自由に行き来できます。イメージとしては、ちょっとディズニーシーのような感じ。

● モールオブジェミレーツ

2005年にオープン。エミレーツの名を冠したショッピングセンターだけあって規模は巨大です。

中には以前千葉にあったザウスのような屋内スキー場があり、ちゃんとリフトも稼動しています。



今回訪れた中では最も大きいショッピングセンターで、各種ブランドの店舗、大型スーパーのカルフルー、映画館、上記のスキー場などがあります。駐車場も広大でした。



左は滞在したホテル、「ルネッサンスホテル」の前で行われていた地下鉄の工事。街中は全面アスファルトですが、こうして掘り起こしているところは砂漠だったのだと分かります。工事はゆっくり進んでおり、少し掘っては砂が崩れるのを止める作業をしなければならないため、2008年中の地下鉄開通は厳しいのではないかと感じました。

#### ● ルネッサンスホテル（滞在したホテル）

市内（デイラ地区）にあるホテル。格付けは5ツ星です。他の5ツ星ホテルのような豪華さは余りありませんが、サービスが日本人向けとされている通り、滞在はとても快適にできます。

### 【2日目】 市内のホテルめぐり — デザートサファリ

いくつか市内のホテルを見たあと、以下のホテルへ、この日視察で10近くのホテルをまわりました。

#### ● シェラトンクリークホテル

クリークの脇に建つ、シェラトン系の5ツ星ホテル。ロビーは水の流れる音に包まれ、落ち着いた雰囲気。写真の客室は1ベッドの角部屋。



#### ● ジュメイラビーチホテル

満室のため客室は見られませんでした。今回訪れた中で最も賑わっていたホテル。

プライベートビーチのエリアも広く、セキュリティがしっかりしており宿泊客以外は入れません。

ビーチに面して右側がマリーナになっており、水はきれいで小さなサメなどの魚が泳いでいるのが見られます。

また、左側がビーチで、沖にはバージュアルアラブの偉容が見られます。



外観



ロビー



マリーナ



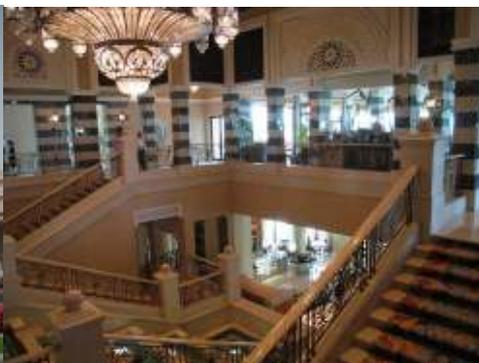
沖に見えるバージュアルアラブ



● リゾートシティ、「マディナ・ジュメイラ」

ミナ・アッサラーム、アル・カスル、ダル・アル・マシャフの3つホテルと、昨日訪れたショッピングセンター、「スーク・マディナ・ジュメイラ」があります。

全体の雰囲気としては広大な街という感じで、昔のアラブの町並みを模したテーマパークといった様子です。



アル・カスル（日本人スタッフがいる）



アル・カスルの客室

### ●ジュメイラ地区（パームジュメイラの辺り）

世界のクレーンの3分の1が集まっていると言われるドバイですが、この地域ではそれが実感できます。周辺は工事のクレーンがひっきりなしに動いており、空気もあまりきれいではありません。右下の写真はかなり高いホテルの展望カフェから見た景色ですが、パームジュメイラの全体像はかすんでよくわかりません。



ビル建設工事の様子

良く見えませんが、パームジュメイラです

### ●デザートサファリ

郊外の砂漠までは30～40分。市内の渋滞を抜けてしまえばスムーズです。

ドバイ市内を出たところの砂漠を、巨大な鉄塔群と送電線が何重にも重なって横切っている様は壮観でした。

途中の売店で十数台の車が集まり、タイヤの空気抜きを行ってから砂漠に入ります。帰りにまたここで空気を入れていくことになります。

ホテルに直接迎えに来てくれますが、渋滞の関係で時間が読めないため、3時～4時の間、といった具合です。

乗り込むとすでに他のツアー客が乗っており、そのまま砂漠へ向かいました。



途中の風景

エア抜き

砂漠

途中の基地のような駐車場でエア抜きを済ませるといよいよフルデザート（砂だけの砂漠）へ。シートベルトをするように指示があった後はどんどん砂漠に入っていきます。

砂はかなり細かく、かなりの勢いで突っ込んでもそんなに衝撃はありません。30度ほどの急勾配を陽気な音楽を大音量で流しながら走るため、途中で気分が悪くなって休んだ人もいました。

かなり横に傾いても倒れませんが、スタックした時のためか、常に2～3台である程度固まって走ります。車の側面や上にも砂をかぶり、パラパラと車内にも砂が入ります。ハンドル操作である程度ターンも出来るため、車でスキーをしているような感覚でもあります。ジェットコースターの、胃が浮くような感覚はあまりありません。

砂丘の上で一旦車外に出ましたが、風で砂は飛ぶもののせいぜい砂の表面だけを流れる程度で、強い風が吹かない限りは舞い上がるほどではありませんでした。



砂漠

サンドバギー（参加者は無料）



砂漠の中の基地（売店、トイレなど）

ラクダ（参加者は無料で乗れる）

夕食の準備（多少の焦げはご愛嬌）

キャンプ（基地）ではラクダ、サンドバギー、サンドボード、シーシャ（水タバコ）、フェイクの刺青コーナーなどがあり、どれも無料のようです。売店で売っている土産やスナック類はもちろん有料ですが、ソフトドリンクは無料、温かい紅茶もあります。アルコールだけは有料で、ビール350mlが600円ほどします。

キャンプに着いてからは自由に遊ぶのが基本のようで、ベリーダンスが始まるまでは2～3時間ありました。日が落ちると冷えてきますので、羽織るものは必需品です。端のほうの壁と屋根のあるところに陣取ってしまえば風をしのげます。

ダンサーが出てくるずっと前に、ステージにはライトがとまり、音楽が流れると、誰からともなく参加者が勝手にステージで踊り始めました。後で聞くとイランから観光客が多く参加していたようで、たっぷり1時間ほどはイラン人のイラニックダンスを眺めていました。ダンサーは1人だけで、20分ほど一通り踊り、ステージに参加者を上げて一緒に芸をさせたりし、「皆で踊ろう」と一声かけると自分はさっさといなくなっていました。

ベリーダンスを見る、というよりは盛り上げ役に近いものがありました。

それが合図のように皆バーベキューコーナーに列をなし、食料を受け取ります。

先ほどからずっと焼いていたバーベキューや長粒米、ナンなどをどかどかと皿に盛ってくれます。

何回でももらえますが、だいたい人数分でなくなるようです。お味の方は、要するにバーベキューの味です。



イラン人（参加者）たちの踊り

ベリーダンス（約20分）



食料配給の様子



入手した食料

ホテルに着くのは10時ころになる予定でしたが、9時ころには到着しました。市内まではスムーズ。市内に入ると多少の渋滞があります。

**【3日目】** 別の首長国である、シャルジャ、アジマンを視察、その後バージュアルアラブへ潜入。深夜空港に向かい帰国。

海外線沿いにジュメイラと反対方向へ、ドバイ以外の首長国であるシャルジャとアジマンの視察に向かいます。首長国とはいえかなり近く、特にゲートがあったりするわけではなく、移動中に県が変わるような感じです。ドバイ市内からシャルジャまでは車で30分、その先のアジマンはそこから10分程度で着きます。ただ出稼ぎの人たちが、家賃の安いこのエリアに住んでいるため、朝9時頃と夕方はかなり渋滞するとのこと。途中の道ではマンションやアパートの建設ラッシュで、かなりの数を建築中です。ドバイの高層マンション等には、投資家も盛んに投資しているそうです。

● アジマン ケンピンスキーホテル

7つの首長国の中で最も小さいのがこのアジマンで、ビーチはドバイよりも良いとのこと。500mもの広大なプライベートビーチをもつケンピンスキーリゾート。日本人スタッフはいませんが、親切に客室や設備を案内してくれました。ジュメイラのホテルのような華やかさには欠けますが、ホテルの設備としては申し分ありません。全室オーシャンビューで、バルコニーつき。



ケンピンスキー客室



プールとビーチ（ビーチはかなり広い）



客室例

● シャルジャ ラディソンSASリゾート

外観とロビーはとてもきれい。築二十数年ということもあり、廊下の照明や客室もちょっと暗い雰囲気ですが、ロビーを皮切りに順々に改装中とのことでした。ロビーは緑を多く植え込み、吹き抜けの下にあるレストランは小川も流れるちょっとしたジャングルのような雰囲気です。ロビーのこの仕上がりを見ると、この調子で改装が進めば何年後は見違えているのではないかと思います。

案内してくれた人はインド系のスタッフでしたが、何かレンジャーのような姿でした。

バルコニーは一部の部屋にあります。プライベートビーチでは人々が思い思いにくつろいでいました。

このホテルにはボーリング場もありました。



ラディソン外観

ビーチエリア

客室

● バージュアルアラブ

ジュメイラビーチに戻り、いよいよ今回の目玉に潜入です。

先にも触れましたが、人工島に渡る橋の手前にゲートがあり、検問所のように予約の有無を確認します。

今回は視察ということでセールスマネージャーと約束があったので、名前を伝えて入場。道路面からせり出しているゲートが路面に収納され、車で進みます。宿泊客は、自由に橋を歩いて渡っていました。

中はまさに極彩色で、赤、青、黄、金色が踊ります。宿泊客もあちこちで写真撮影をしています。

入り口で宿泊客に配っているデザート（最高級とのこと）が置いてあり、ガイドさんが勧めるのでいただきました。

さすがに他の場所で口にしたものより甘く、柔らかいようです。



ロビー脇エスカレーターの水槽

ロビーの噴水（吹き抜けのかなり上部まで上がる）

入ってすぐの場所

残念ながら写真はありませんが、客室も拝見しました。

部屋数は202室、スタッフは優に1500人くらいはいるそうです。全ての部屋がスイートでネズネットタイプなので2階があります。キッチンのある部屋では、コックさんの出入り口は別に設けるなど、徹底的にこだわってつくっているようです。部屋にはバーカウンターや執務用の立派なデスクやパソコンもあります。

アラビア海に面してガラスを多用しており、すばらしい眺めが楽しめます。

いわゆるホテルのフロントはなく、何フロアか上がったところにあるカウンターまで行くと、各部屋につくバトラー（執事）が待っており、部屋まで案内して一切の面倒をみてくれるそうです。

27階の展望レストランは、アラビア海200mの上空にせり出し、確かに絶景でした。ハイティーはこの場所。



真下から見上げた図



2階ロビー



吹き抜け



バージュの島から見たジュメイラ



その横のワイルドワディ



メディナジュメイラ

● 市内へ戻る途中、建設中のドバイタワー（完成したら世界一の高さに）やモノレールを車窓から見ました。2年もすれば、街は全く違った様子になることでしょう。



建設中のドバイタワー



市内のモノレール（工事中）



大林組のクレーン

### ● 帰国

フライトが深夜2:50のため、2時間ほどの仮眠を取ってから夜中に空港へ。夜でも混むというので23:30にホテルを出たところ、確かに車は多かったものの24:00くらいには空港に着きました。

手荷物のチェックを済ませ、エミレーツのカウンターへ。カウンター手前に自動チェックイン装置がありますがそこにもエミレーツの係員がおり、チェックインをしてくれます。チケット番号を打ち込み、パスポートを機械にかざし、座席指定を終えたら搭乗券が出ます。カウンターでは荷物を預けるだけで、帰りの手荷物は関空でピックアップする必要があるそうです。



自動チェックイン装置



深夜の免税店街



ドバイ空港

深夜発のフライトが多いためだと思いますが、免税店街やカフェなど、深夜とは思えないほどの人でごったがえしており、空港というよりは巨大なショッピングモールの雰囲気です。

動く歩道脇のイスの下には眠っている人が多数おり、イスはあまり利用できない状態ですが、エアラインの待合室に入れば座れます。帰りのフライトは9時間程度。写真撮影後、眠っていたらまたすぐ半分くらいは過ぎてしまいました。



関西空港



ターミナル間移動のシャトル



税関を出たところにある両替所

関空から羽田は約50分。帰りは関空で荷物をピックアップします。やはり新幹線で名古屋まわりより、関空経由でフライト利用の方がはるかにラクです。

目的地がドバイの場合、着いてからも割とハードなスケジュールになりがちなので、成田-名古屋へフライトでつなぐ場合はともかく、新幹線の利用はよほど金額に違いが出る時でないといあまりおすすめはできません。

### ● ドバイ訪問の感想

日々姿を変える街だと言われますがまさにその通りです。進歩と変化を楽しみ、流行を追うのであれば、何度訪れても楽しめる場所だと思います。逆にアラブの雰囲気を楽しみたいというリピーターなどは、別の目的地を目指すことになるのかもしれません。

気持ちのいいビーチで過ごしたいというのであれば、他の選択肢もいろいろありますが、ジュメイラビーチの景観は確かに一見の価値はあるものでした。

現地ではあまりお金を使わない、という旅行にはあまり向かない場所だとは思いますが、そうではない方にとっては、ドバイの街は世界中の高級品が集まり、高度なサービスも受けられるため、魅力的な場所であることでしょう。また、恐らく訪れるたびに変わっていく場所ですので、エミレーツ航空を利用してどこかへ行く際に、ちょっと立ち寄って様子を見る、という楽しみ方も良いのではないかと感じました。

今回の旅の成果が、サイトご利用の方への気遣いとして活かせるように、一層工夫して参ろうと思います。

つたない記録ですが、最後までお読みいただきありがとうございます。